

妊娠・出産と家族

— 妻の分娩に立ちあった夫とその家族の特徴 —

平 山 宗 宏 (東大母子保健)
上田 礼子・小沢 道子 (東大母子保健)
入内島明美・唐沢 陽介 (三楽病院)

目的・対象・方法

母子関係の重要さは一般に認められ、それに関係する資料も多いが、父子関係をめぐる家族の実証的研究は少ない現状である。著者らは子どもの誕生を契機として夫や妻がどのような家族を形成していくかを長期的追跡的に明らかにすることを目的にすでに調査を開始しており、表5はその経過を示している。

対象は都内三楽病院にて妻の分娩に立ちあった夫とその家族および対照群(分娩に非立ちあいの夫とその家族)である。産褥期から小児の4カ月になった時点までの調査結果はすでに第1回、第2回の班会議で報告した。今回は同一対象者の小児が12~18カ月になった時点で父親(立ちあいA群103名、非立ちあいB群232名)を対象として郵送法による質問紙調査を実施した結果の概略を述べたい。

結果と考察

(1) 小児の生後2年目における父親の養育行動をA群とB群で比較した結果、食事、睡眠、排泄、風呂の世話など各項目の種類や頻度において両群の間に差はなかった。また、絵本を読んでやる、遊び相手になってやる、散歩につれていくなどの遊戯的行動においても両群の間に差は認められなかった。

(2) 父子間の相互関心の程度を知るために、子どものなついている人を両群の間で比較した結果は表6の如くであり、A群にはB群に比較して父親になつている子どもが多い傾向にあった。一方、前父親行動(準備期)として母親学級への出席率を両群の間で比較するとA群45.1%、B群3.4%であり、A群はB群よりも有意に高かった。また、今回の質問紙の回収率もA群の方が有意に高く(A群45.8%、B群38.8%)、A群は子どもに対する関心がより高いことを示唆していた。

(3) 両群の生活歴を比較した結果、A群はB群に比較して家族でどこかへ遊びに行く経験のあるものが有意に多く、過去の生活歴が関与していることを意味していた。

Lamb, M. E. は父親が子育てにおいて母親とはいくらか異なる役割をはたすこと⁸⁾、また、子どもにとって生後の2年目から性別による父親への愛着が出現し、男の子は父親によりなつきはじめることを観察している。今回の調査時に具体的養育行動において両群の間に差がみられなかったが、表7に示す如き子どもの性別により親の遊戯的行動に差が認められ、父親は男の子には女の子よりも相手になってやる頻度が有意に高かった。子どもの成長・発達につれて親子関係のあり方も力動的に変化するもので、子どもの性別も考慮しながら両群の家族を今後も追跡する必要があると考える。

乳幼児の生活する環境として家庭は時間的・空間的に大きな比重を占めている。しかし、乳幼児の発達を促す環境としてどのような家庭刺激が好ましいかという実証的研究はあまり多くない。また、数少ない家庭刺激の測定法は研究を第2の目的として開発されているので、観察技法が複雑であり、時間もかかり実用化には限界がある。Frankenburg, W. K. らはこれらの欠点を克服するものとして家庭刺激をスクリーニングする質問紙 Home Screening Questionnaire (HSQ) を考察した。著者らはこれを日本の乳幼児にも使用できるかどうかを検討した。

表8はHSQの一部を抜粋したものである。0~3歳児用、3~6歳児用の2種類があり、いずれも該当する項目に養育者のチェックを求め個人の総合得点を算出することによって評価する方法をとる。

表9は0~3歳児用について496人を対象にHSQを実施した結果の得点分布を示している。最低9~最高29までであり、平均得点は21であっ

た。平均値から1標準偏差をひいた18点を仮りにスクリーニングのcutting pointとし、18点以下の低得点(リスク群)とした。この妥当性を検討するために平均値から1標準偏差高い24点以上を高得点として両群の背景を比較した結果は表10の如くであった。

表11は父母の学歴および父親の職業において両群に有意差が認められたことを示している。父母の学歴が義務教育卒、父の職業が単純労働の者が低得点群に多く、また、プレ発達スクリーニング質問紙PDQ¹⁰得点の低い者が低得点群に多かったことを示している。

表12はHSQ得点の地域による差を検討した結果である。東京都群と岩手群との間に差はないが東京都群は沖縄群より有意に高く、また、岩手群は沖縄群より有意に高かった。

ところで、この検査を日本の母親に用いた時に30項目中6項目は評価基準の修正を要することも明らかになった(表13参照)。表14はその1例であり、原版は定期購入雑誌の項目でニュース雑誌の買入のみに1点を与えるが、日本版ではニュース雑誌および子ども用雑誌のいずれの場合にも1点を与えることに修正した。

ま と め

以上、著者らは追跡的研究方法により①親子関係は子ども側および親側の条件によって力動的に変化すること、②したがって、定期的にハイリスク者をみだすスクリーニングの概念の導入と技法の開発を実用的観点から必要とすること、③社会の多様化した価値観の中で種々の家庭が出現してきているので、リスク家庭を早期にみつけ介入する必要があることをみだしてきた。このような観点から今後更に検討を続けたいと考えている。

文 献

(研究課題1~3の分)

1) Kempe, C.H., and Helfer, R.E., Early recognition and prevention of potential problems in family inter-

action, ed. by Helfer, R.E. and Kempe C.H., Child Abuse and Neglect The Family and the Community. Ballinger Publishing Co., Cambridge, Mass., 1976, p361~375.

- 2) Phillips, C.R. and Anzalone J.T., Fathering-Participation in Labor and Birth. The C.V. Mosby Co., 1978.
- 3) 上田礼子, 小沢道子, 平山宗宏, 妊娠, 出産, 産褥期の適応行動, (1)妊娠の受容, 母性衛生, 22, (1), 1981, p93~98.
- 4) 池田紀子・中川礼子, 上田礼子, 平山宗宏, 妊娠・出産・産褥期の適応行動, (2)妊婦への適応評価方法の考察, 母性衛生 22(4), 1982, p16~21.
- 5) 上田礼子, 小沢道子, 平山宗宏, 池田紀子, 中川礼子, 妊娠・出産・産褥期の適応行動, (3)妊娠中と産褥期との関係, 母性衛生, 23(1), 1982, p13~16.
- 6) 上田礼子, 古屋真由紀, 乳幼児期における発達の縦断的研究, (3)乳幼児期発達指数と幼児期発達との関係, 小児保健研究 36(6), 1978, 430-433.
- 7) 上田礼子, 猫田泰敏, 小沢道子, 平山宗宏, 入内島明美, 唐沢陽介, 夫立ちあいによる分娩とその意義に関する追跡的研究(第1報) - 夫立ちあい分娩の動機を中心として, - 母性衛生, 23(1), 1982, p77~82.
- 8) Lamb, M.E. The development of mother infant and father-infant attachments in the second year of life. *Developmental Psychology*, 13, 1977, p637~648.
- 9) Lamb, M.E., Father-infant and mother-infant interaction in the first year of life. *Child Development*, 48, 1977, 168~181.
- 10) 上田礼子, 日本版デンプー式発達スクリーニング検査-JDDSTとJPDQ, 医歯薬出版, 1980.

表5. 研究計画(2) 妊娠・出産と家族

対象；分娩に立ちあつた夫とその家族（妻・子ども）

分娩に非立ちあいの夫とその家族（妻・子ども）

方法；産褥入院中 質問紙による調査

（分娩時の体験，立ちあいの動機，子どもへの知覚，育児観，妻や夫のそれぞれ相手に対する役割期待，母児同室か否かとその理由）

産褥1か月 NPIを父・母に実施

小児の健康状態と家族の調査

小児の4か月 乳児に対する知覚，日常の世話の状況を父・母を対象として調査

小児の8～12か月 小児の発達検査

小児の12～18か月 父親を対象として調査

表6. 子どものなつている人

| 人 群 | 立ちあい群 | | 非立ちあい群 | |
|-----|-----------|------|------------|------|
| 父 | 8 | 15.4 | 11 | 12.2 |
| 母 | 35 | 67.3 | 70 | 77.8 |
| 父・母 | 9 | 17.3 | 5 | 5.6 |
| 無回答 | 0 | 0 | 4 | 4.4 |
| 計 | 52人100.0% | | 90人 100.0% | |

$p < 0.1$

表7. 遊び・絵本よみ・散歩の状況

— 性別・第一子 —

| 頻度 | 性 | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|
| | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 大変よくする | 27 | 52.9 | 12 | 30.8 |
| よくする | 9 | 17.7 | 16 | 41.0 |
| 時々する | 15 | 29.4 | 8 | 20.5 |
| しない | 0 | 0. | 3 | 7.7 |
| 計 | 51人100.0% | | 39人100.0% | |

$p < .01$

大へんよくする：毎日・週3～4回2種類以上

よくする：毎日・週3～4回1種類

時々する：週に1回

表8. HSQ (一部抜萃) 0 ~ 3才

-
1. お子さんをつれてしばしば祖父母, 親せき, 友人などへでかけますか?
 1年に1回ぐらい 1年に6回ぐらい
 1カ月に1回ぐらい 1週に1回ぐらい
 2. 定期的に買っている雑誌がありますか?
 家庭雑誌 ニュースに関係ある雑誌
 子ども用の雑誌()
 その他 なし
 3. お子さんは毎日どのくらいトット, トッターや子ども用の椅子に腰かけたり, ベビーサークルを使ったりしていますか?
 全くない 1時間以内
 1~3時間 3時間以上
 4. おもちゃをしまうおもちゃ箱とか特別な場所がありますか?
 ある なし
 5. お子さん用の本は何冊ぐらいありますか?
 0 1~2冊
 5~9冊 10冊以上
 6. あなたは自分用の本は何冊ありますか?
 0~9冊 10~20冊
 20冊以上
 その本をどこにおいていますか?
 箱に入れておく 本棚にたてておく
 その他()
 7. お子さんを食料品店などにつれて行きますか?
 つれて行かない, 大人だけが行く
 1カ月に1回ぐらい 1カ月に2回ぐらい
 1週に1回ぐらい
 8. 今から3カ月以内にお子さんの子守りをする人, あるいは保育所は何回ぐらい変りましたか?
 かわらない かわった(回)
 9. ベットはいますか? (犬, 猫, 魚, 鳥など)
 いる いない
 10. 先週は何回ぐらいお子さんをたたいたりしましたか?
 した(回) しない
 11. いつ頃お子さんに話しかけをはじめましたか?
 0~3カ月 3~9カ月
 3~9カ月 9~15カ月
 子どもが理解できるようになったとき
-

表9. HSQ 得点分布 (0~3才)

| 得点 | 人数 | 累積パーセント | 平均値・標準偏差 |
|-----|------|---------|----------|
| 30 | 0 | | |
| 29 | 1 | 0.2 | |
| 28 | 6 | 1.4 | |
| 27 | 8 | 3.0 | |
| 26 | 27 | 8.4 | |
| 25 | 27 | 13.8 | |
| →24 | 56 | 25.1 | |
| 23 | 61 | 37.4 | |
| 22 | 60 | 49.7 | |
| 21 | 51 | 60.0 | |
| 20 | 56 | 71.3 | |
| 19 | 49 | 81.2 | |
| →18 | 31 | 87.4 | |
| 17 | 18 | 91.0 | |
| 16 | 19 | 94.8 | |
| 15 | 8 | 96.4 | |
| 14 | 7 | 97.8 | |
| 13 | 4 | 98.6 | |
| 12 | 2 | 99.0 | |
| 11 | 2 | 99.4 | |
| 10 | 1 | 99.6 | |
| 9 | 2 | 100.0 | |
| 計 | 496人 | 100.0% | |

平均 ● 21.1

24.4

17.8

表10. HSQ 得点に関する要因
— 0~3才 —

| | |
|----------|-----------|
| 父の学歴 * | PDQ得点 *** |
| 母の学歴 *** | 出生順位 |
| 父の職業 ** | 兄弟数 |
| 母の職業 | |
| 父の年齢 | |
| 母の年齢 | |
| 家族形態 | |

*** p<.001 **p<.01 *p<.05

表 11. HSQ 低得点と高得点の比較
— 有意差の認められたもの —

| 項 目 | | 低得点 (18↓) | | 高得点 (24↑) | |
|------------------|---------|-----------|--------|-----------|--------|
| 父 の 学 歴 | 義務教育卒 | 23 | 26.7 | 18 | 14.4 |
| | 高 校 卒 | 41 | 47.7 | 68 | 54.4 |
| | 大 学 卒 | 13 | 15.1 | 32 | 25.6 |
| | 不 明 | 9 | 10.5 | 7 | 5.6 |
| | 小 計 | 86人 | 100.0% | 125人 | 100.0% |
| 母 の 学 歴 | 義務教育卒 | 28 | 32.5 | 12 | 9.6 |
| | 高 校 卒 | 45 | 52.3 | 80 | 64.0 |
| | 大 学 卒 | 4 | 4.7 | 22 | 17.6 |
| | 不 明 | 9 | 10.5 | 11 | 8.8 |
| | 小 計 | 86人 | 100.0% | 125人 | 100.0% |
| 父 の 職 業 | 専門・管理 | 0 | 0 | 6 | 4.8 |
| | 事 務 | 40 | 46.5 | 79 | 63.2 |
| | 単 純 勞 働 | 25 | 29.1 | 19 | 15.2 |
| | 商 売 | 8 | 9.3 | 16 | 12.8 |
| | サ ー ビ ス | 3 | 3.5 | 2 | 1.6 |
| | そ の 他 | 10 | 11.6 | 3 | 2.4 |
| 小 計 | 86人 | 100.0% | 125人 | 100.0% | |
| PDQ 得 点 | 10 & 9 | 60 | 69.8 | 116 | 92.8 |
| | 8 & 7 | 21 | 24.4 | 9 | 7.2 |
| | 6 ↓ | 5 | 5.8 | 0 | 0 |
| | 小 計 | 86人 | 100.0% | 125人 | 100.0% |

表 12. HSQ 得点に関する要因
— 地 域 —

| 地 域 | 平均値・標準偏差 |
|----------|-------------|
| 東 京 496人 | 2 1.1 ± 3.3 |
| 岩 手 123人 | 2 0.5 ± 3.7 |
| 沖 縄 116人 | 1 9.4 ± 3.3 |

p<.05 岩手・沖縄 p<.001 東京・沖縄

表13. HSQ評価尺度の検討 — 0～3才 —

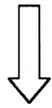
| 項 目 | 原 版 | 日 本 版 |
|---------------|--------|------------------|
| 定期購入雑誌 | ニュース雑誌 | ニュース雑誌 子ども用雑誌 |
| 母親の本の持ち数 | 10冊以上 | 6冊以上 |
| 3ヵ月以内の子守り変更回数 | 0～3回 | 0回 |
| 先週子どもをたたいた回数 | 0～1回 | 0～3回 |
| 父親の子どもへの世話の頻度 | 1日1回 | 1日1回 週に3～4回 |
| 家計の決定者 | 父 | 母 |

30項目中6項目修正

表14. 定期購入雑誌 0～3才

| 種 類 | ニュース | 子ども用 | 家庭用 | そ の 他 | 購 入 せ ず | 不 明 | 計 |
|-----|----------|------------|-----------|----------|------------|----------|----------------|
| 件 数 | 1 0.9 | 39 33.9 | 11 9.6 | 7 6.1 | 53 46.1 | 4 3.4 | 115件 100.0% |

: 原版 : 日本版



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的・対象・方法

母子関係の重要さは一般に認められ、それに関係する資料も多いが、父子関係をめぐる家族の実証的研究は少ない現状である。著者らは子どもの誕生を契機として夫や妻がどのような家族を形成していくかを長期的追跡的に明らかにすることを目的にすでに調査を開始しており、表5はその経過を示している。

対象は都内三楽病院にて妻の分娩に立ちあった夫とその家族および対照群(分娩に非立ちあいの夫とその家族)である。産褥期から小児の4ヵ月になった時点までの調査結果はすでに第1回、第2回の班会議で報告した。今回は同一対象者の小児が12~18ヵ月になった時点で父親(立ちあいA群103名、非立ちあいB群232名)を対象として郵送法による質問紙調査を実施した結果の概略を述べたい。